

透視像

線のどの駅の名も歴史を感じる懐かしい響きだ。

多伎町（島根県出雲市）

碓井 静照

古代史を大きく塗り換える12万年前の石器時代前期の石器が島根県出雲市の砂原遺跡で発見された。日本最古といふ。

出雲から山陰線に乗つて日本海沿線を眺めると、出雲路は黒い土にも歴史が感じられる。春は若竹の多い竹藪や、低い屋根の民家、田植えを終えたばかりの若緑の田んぼ、きらきら光る海、

岸壁に打ち上げる白波が、秋には水と空と雲のつくり出す或る微妙な、たゆたひ（田畠修一郎、浜田市出身の言葉引用）が冬に向う重さをしのばせている。宍道（しんじ）、五十鈴（いそだけ）、仁摩（にま）、温泉津（ゆのつ）、山陰

多伎町多岐はもともと神話と伝説の町である。「出雲風土記」にみる「国と物語」は天照大神、大国主命が登場する神代の世界だが、出雲大社の大主柱の基部、荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡と古代の埋蔵品が登場すると、神話の

世界が現代によみがえり古代史があります面白くなる。

多伎神社は「出雲國風土記」記載の多吉社にあたり、祭神・阿陀加夜努志多伎吉比賣命（あだかやぬしたきひのみこと）は、記紀に登場しない出雲の土地神である。明細帳では、音の類似から宗像三女神としているようだ。

こいつた古色蒼然とした古い神話の世界も、今回発見された12万年前の遺跡の前にはついこの間起こった近代史のようなものである。12万年前、国引き物語よりも遙か前の時代に、日本海の向こうの大陸と日本がつながっていたはずだ。この地は酸性の火山灰に覆われていたからナウマン像の化石などは存在するはずもないのだが、なかに矢じり、石の刃物のほかに埋蔵物は発見されないものか。